

## 令和4年度 自己評価書・学校関係評価書

令和5年2月28日  
真庭市立美川こども園  
園長 横田 朝子 印

## 1 美川こども園の教育保育目標

## ○教育・保育目標

『一人一人の「じょうぶな頭」と「かしこい体」を育み「まあるい笑顔」を輝かそう！』

## ○めざす子ども像

「どんどん考える子ども」（じょうぶな頭：思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ）

「いきいき楽しむ子ども」（かしこい体：元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性・意欲）

「ぽかぽか温かい子ども」（まあるい心：思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

## 2 本年度の重点目標（課題）

## 本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

## 「豊かな話し言葉を育む環境づくり

～話したい！聞きたい！伝えたい！気持ちを育む～

○子どもと職員、子ども同士、職員と保護者の信頼関係構築に努め、安心して話したくなる、聞きたくなる気持ちを育む基盤づくりをする。

## 1 心が動かされ、伝えたい、関わりたくなる環境づくりのために

子どもたちが「なんで？」「どうなってるの？」と驚いたり、「すごい！」「おもしろい！」と感動したり、「こうしたらどうなるかな？」と考えたりと心動かしながら関わり合えることができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図る。

## 2 話したいと思ったときに、話せる職員であるために

子どもが「話したい」と思った機会を大切に受け止め、最後まで丁寧に聴くことで、聴いてもらった満足感や心地よさを十分に感じられるようにする。

## 3 感性と表現力を豊かにする発達に応じた体験と言葉の獲得のために

生活の中で、心を動かす出来事を経験できるように、季節や行事を取り入れた体験や絵本を聞かせてもらう機会を日常的にもち、感性を高める実践を重ねる。また、絵本環境を充実させ、家庭でも楽しめるように、月刊絵本の配布や絵本貸しを定期的実施する。

## 4 保護者支援のために

日々一緒に過ごす中での子どものつぶやきを保護者へ伝えながら、子どもの発する言葉のかわいらしさや面白さを伝え、保護者自身も子どもの言葉に耳を傾けたいと思えるように働きかける。

3 本年度 美川こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	幼児理解を基本に据え、園の運営方針の下、各年齢に応じて指導の重点や研究テーマに沿った保育に取り組んでいる。	3	3
行 事	感染症の対策を講じながら、ねらいを明確にして実施し、園児の育ちをポイントにして見直しを行っている。全員での会議が持ちにくいので、情報共有できるように行事計画書を作成し、回覧してきた。	3	4
組織・運営	経営計画をベースに同僚性を活かした組織作り・園運営をしている。	3	3
学級経営	一人一人を大切に、園児に寄り添い、内面理解をすることを保育の基本としながら温かい人間関係を構築している。	3	4
特別支援教育	必要に応じて職員を配置して、一人一人の困り感を理解しながら援助や環境作りをしている。研修、関係機関との連携も図りながら進めている。	3	4
安全管理・ 保健指導	園内の安全点検を定期的に行い、事故防止の配慮や職員研修を行い安全に過ごせるようにしてきた。避難訓練、交通安全指導も毎月行っている。また、情緒の安定のため絵本など家族時間を大切にする取組を推奨してきた。	3	3
研修 (資質向上)	全職員に研修の機会をつくり、園外研修への参加やテーマを設けた園内研修を計画的にしている。臨時の研修も必要に応じて行ってきた。園内研修については、職員の加配ができず、参加ができない職員がでることもあったのが課題である。	3	3
情報提供・保護者・ 地域との連携	HPの更新や子ども達の様子の写真掲示などで視覚的にも園の様子がわかるようにしてきた。また、保護者と日常的な情報交換に加え、必要に応じて個別面談を行い連携を図っている。	3	3
小学校との接 続・連携	園と小学校職員との話し合いの場をもち、接続に向けて情報共有している。また、園児・児童が互いに学ぶことのできる交流の場を設ける予定。	3	3

子育て支援	子どもの良いところや成長、日々の健康についての情報等を積極的に発信し、保護者が必要とした時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。	3	3
食育の推進 (給食)	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちもてるようにしている。また、調理師が話をする機会をもったり、毎日の給食を写真掲示し、保護者と子どもが食材や献立を話題にしたり、食事に関心が向くようにしてきている。	3	4
食事の提供 (調理)	衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにし、調理担当と園児のコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようにしている。	4	4
環境美化	美化・整備・清掃を心掛け、のびのびと活動に取り組める環境づくりを心掛けている。	3	3

#### 4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	いつも明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。子どもの育ちを伝えられるように、情報共有をすると共に、全職員で公平に誠実な対応をしてきた。	3	4
健康な心と体	感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている	3	4

#### 5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

<p>○子ども達からの発言に耳を傾け、話を最後まで聞いたり、肯定的に受け止めることで、子どもらしい発想や素直な表現を聴くことが多い。職員が意識することで気づきも多くなっているのではないかと考える。終礼等で職員間で共有して、職員間で学年を越えて子どもの良さや成長を共有できている。そのことで、保護者へも直接話をしながら伝えることができた。</p> <p>○低年齢児では発語が増え、話したい気持ちがどんどん出てくる時期に職員がじっくり聞くこと、話しかけることで、自分からコミュニケーションを取ろうとする姿が多くなってきている。</p> <p>○自ら選んだ遊びの環境作りについては3歳以上、3歳未満児に分かれて話し合う時間を設けていたが、なかなか時間をとれないこともあった。内容を深めるためにも職員の話し合いの時間の確保に課題が残る。</p>
--

- コロナ禍で職員の急な欠席などもあったが、子どもに気持ちのゆとりを持って関わられるように体制を整えるようにしてきた。それが難しいこともあったが、職員間の連携、チームワークのよさが強みで、皆で乗り切ることができた。
- 言葉遣いが乱暴な場面もあり、園での援助だけでなく、家庭との連携の必要性和難しさを感じている。どのように家庭支援していくかが今後の課題である。
- 言葉については各家庭での差もあるので、対応が難しいと思う。
- 先生方の接し方もその子にあった言葉かけで、発表会も子ども一人一人が自信をもって発表できるように工夫されているのがよくわかった。一人一人がいきいきとしていて素晴らしかった。
- 子ども達の心を大切に受け止めようとされていることに一番安心感を持った。職員同士が、心を割って話し合い、支え合う園であってほしいと願っている。
- 子ども達の笑顔が絶えないようにしてほしい。
- コロナ禍で、園に行く機会も少なかったが、園行事の参観などで子どもの様子を見て、のびのびと成長している子ども達が手に取るようにわかった。
- 「子どものつぶやき」や嘔吐下痢などの情報は参考になり、保護者も喜んでいるのではと思う。
- 園に行くと、職員がいつも明るく声をかけてくださる。
- 園が保護者や園児との関わりを大事にしていることがよくわかる。
- 子どもが地域に出かけること、地域の人が園に来るような交流を是非してほしい。
- 保育士不足から、職員の休みなどの対応が少しでも改善できたらと思う。

## 6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 話を聞くことのできる人になるためには、まずは自分の話をしっかり聞いてもらう体験が必要である。今年度の研究テーマについての園内研修のまとめでは、子どもの話にじっくり耳を傾けることや、保育者が聞く存在としてのモデルになることの大切さを改めて実感し、子どもの感性を刺激する教材の研究や仕掛け作りなど今後の保育にも活かしていく事を確認した。また、園の図書貸し出しや読み聞かせの推進も引き続き行い、家庭への働きかけとして保護者への保育図書や絵本の貸し出しも取り組んでいきたい。
- 子ども達の育ちを十分に促すための遊びの環境構成は、それぞれの保育者の思いや考えを出し合い話し合うことが必要になる。職員の休み以外にも保育者の教材研究のための時間へのパートタイム保育者配置の工夫、園内研修のように行事予定の中に話し合いの時間を位置づけることで話し合う時間の確保をしていきたい。
- 今年度まで自粛してきた異年齢での交流行事、小学校や地域の方との交流も感染対策を講じながら来年度は取り組んでいきたい。
- 園になかなか来られない状況でも園生活の様子がわかるように、複数の職員がHP更新の担当をするなどの工夫を検討している。
- 今後も、子ども達がのびのびと自己を発揮して、その笑顔が輝くように、そして、安心して子どもを預けていただける園である為に、職員一同気持ちをあわせて取り組んでいきたい。